



パットイスマナー

会員 今西 知篤 (71期)

諸先輩方を差し置いて、アベレージゴルファーである私がゴルフの魅力を語るのは大変恐縮ではあるが、ゴルフの中でも、とりわけパターの魅力を語りたと思う。

パターは、グリーンに乗ったボールを転がしてカップに入れるため、一見地味であるが、300ヤード飛ばすのも、1メートルのパットもどちらも1打には変わりなく、“パットイスマナー”（プロにとってパターこそ賞金を稼ぐ秘訣という意味）という名言があるように、パターが入らなければ、まともにスコアを作ることはできない。

パッティングという技術そのものにも奥深さはあるが、ここでは、パターの道具としての奥深さについて触れたいと思う。

ゴルフクラブは、ウッド・アイアン・ウェッジ・パターと主に4種類に分けられるが、どのクラブも構造や材質についてルール上の制限を受けている。

しかし、パターに関しては、他のクラブに比べて、ルール上の制限が緩く、比較的自由に設計できるため、各メーカーから様々な形状のパターが販売されている。

そのため、パターに関しては、他のクラブに比べて選択肢が多く存在し、かえってどのパター選んだらいいのか分からなくなってしまうことが多い（もっとも、このパター選びの悩ましさもまたパターの魅力の一つである）。

パターの選び方の1番の基準は、ストロークを安定させてオートマチックに打ちたいのか、それとも感覚的に打ちたいのかどうかである。

一般的に、パターヘッド（ボールを打つ部分）が大きいものはオートマチックになり、ヘッドが小さいと感覚的になる。また、グリップ（手でパターを握る部分）が太いものはオートマチックになり、グリップが細いと感覚的になる。

あまり着目されていないが、ヘッド・グリップの他にも、ネック（ヘッドとシャフトの接続部）も形状次第で特性

が大きく異なる（詳細は紙面の都合上割愛する）。

オートマチックに打てた方がカップに入る確率が上がるのだから、ヘッドは大きく、グリップは太くしたほうがいいのではないと思われる方も多いと思う。

ただ、パター選びにおいて、どのように打ちたいかだけでなく、スイングテンポ、ストローク軌道、ボールの転がり方へのイメージの仕方、外見上の好み等のある種感覚的な要素も重要になってくるため、万人に合ったパターというのは存在しない。

他にも、パターヘッドの材質やインサート（打面のクッション部分）の有無によって打感も異なるし、ロフト角（打面の傾斜角）によって打ち出しのボールの転がり方も異なり、これらの要素は普段よく行くゴルフ場のグリーンの速さや苦手なシチュエーションを考慮して決めることになるであろう。

パターにはパーツ毎で様々な要素を有することを述べたため、逆に選びにくくなってしまったかもしれないが、結局のところ、最後は自分の好みで決めてしまってもいいと考える。その中で、上記で述べたような要素があることを頭の片隅に置きながら選んでみると、よりパター選びが楽しめるはずである。

特にパターは他のクラブと違い、摩耗することがほとんどないので、長く使うことができ、スーツのようにオーダーメイドで作成することもできるから、自分だけの最高の1本を探すというパター選びの旅を楽しんでみてはいかがだろうか。



ザ・サザンリンクスゴルフクラブ